

令和6年度 麻生区市民提案型協働事業結果報告書

○あさおホッププロジェクト！みんなでつくるグリーンカーテンのまち・・・P1
(あさおホップ実行委員会)

○親子でサイエンス！地域の食と農（明治大学学生農場）・・・P6

○麻生区の大学間連携による“川崎市市制100th 記念”岡上プロジェクト
(特定非営利活動法人 岡上アグリ・リゾート)・・・P14

○Miraiall かわさき「健康」をテーマとした多世代共考プロジェクト
(一般社団法人 Miraiall かわさき)・・・P19

2025年3月3日

事業結果報告書

（あて先）川崎市麻生区長

団体名	あさおホップ実行委員会
-----	-------------

1 事業結果

コース	<u>スタートコース</u> ・ ステップアップコース	
事業名	あさおホッププロジェクト！みんなでつくるグリーンカーテンのまち	
実施時期	2024年5月14日 ～ 2025年3月3日	
事業費	予算額	260,000円（うち川崎市の負担金額200,000円）
	決算額	122,258円（うち川崎市の負担金額68,258円）
実施結果	（具体的な実施内容及び成果物、開催回数、参加人数など） 【説明会】 ・ホップを育てる上で必要な最低限の知識紹介（成長サイクル、活用例紹介、つるの誘因方法、育成に必要なもの、お手入れ方法など） ・ホップ育成キットの販売（購入者＝本事業の参加者） 5月25日：3名参加・4セット配布 6月15日：16名参加・22セット配布 その他：専修大学佐藤ゼミ・10セットお渡し →合計：個人19名、1団体、36セット配布 【共同畑 定例お手入れ会（月1度）】 ・片平川沿いの私有地と、古沢の畑で定期的にお手入れ 5月11日：片平。雑草抜き、水やり 6月8日：古沢。雑草抜き、水やり 7月13日：片平。雑草抜き、水やり、毬花収穫会 7月23日：古沢。雑草抜き、水やり 8月3日：片平。雑草抜き、水やり、毬花収穫会 8月17日：古沢。雑草抜き、水やり、毬花収穫会 9月7日：古沢。雑草抜き、水やり、毬花収穫会 10月4日：雨天中止 11月9日：古沢。毬花収穫会、ツル撤去	

実施結果	12月7日：片平。毬花収穫会、ツル撤去 2月8日：片平。地下茎の間引き、元肥と堆肥の追加 【懇親会】 6月23日：ペコラビールで懇親会 1月11日：ペコラビールで懇親会 【SNSでの交流】 日常的に相互的に交流。主に、梅雨時期で病害虫対策についての相談、真夏のグリーンカーテン完成報告、雌花と毬花の報告、料理やアートへの活用アイディアの共有、枯れツル処理の報告、根茎の大きさ報告など。 【その他】 5月17日：専修大学ゼミ生と伸和コントロールズ様のホップを見学 6月1日：専修大学ゼミでホップについてレクチャー 初夏～晩秋：メンバーの家や共同畑でホップを収穫、醸造所に持ち込み 10月5日：集まった生ホップ約1kgを発酵タンクに投入 10月26日：地域の生ホップ使用ビール「CoHop.」完成 11月23日：専修大学ゼミ生の生ホップ使用ビール「Co_nect」完成
事業総括 (自己評価)	(当初の目標に対する達成度、事業を実施したことによって生じた効果、参加者の反応など) 【麻生区の醸造所とのコラボレーション】 上記の通り、予定をしていた麻生区のビールに加えて、専修大学のゼミ生が大学敷地内で育てたホップを使用したビールも完成しました。 【育成場所の拡大】 五月台駅前、古沢畑、そして専修大学敷地内と育成場所を増やすことができました。 【運営体制の変更】 今年はメンバーの2名にそれぞれ、ホップお手入れ会の指揮と、メンバー内のお手入れ会の告知や広報をお願いいたしました。今年は古沢の共同畑を新たにお借りしたため、雑草が生い茂る初夏～初秋は1ヶ月に2回活動をする月もあるなど大変でしたがメンバーに助けていただきました。 【イベントの拡充】 当初、地域の一般参加者を募り、ホップ収穫会などを開催する計画でした。しかし、8月前後の枯れにより毬花の発育予測が困難で、チラシの配布時期を調整できず、一般参加者を迎える形での開催が困難となりました。上記のコラボビールを飲まれた方など、来年度は活動に参加したいという方も増えており活動が認知されていると感じています。来年度はホップ収穫以外にも地域住民と関わる機会を設けるべく、新たな取り組みを模索してまいります。

事業総括 (自己評価)	【参加者の創意工夫】 ホップを使用したクッキーやホップ炭酸水、懇親会では生ホップを使用した香草ソースを肉料理に添えたり、主に料理に活用されました。専修大学のゼミ生は子どもたちもホップを楽しめるように、麦汁と生ホップを使用したビールテイストな炭酸水をつくりイベントで提供をしておりました。 【メディア実績】 ・MYTOWN（1回） ・かわにし（1回） ・かながわ経済新聞（1回） ・テレビ神奈川（1回） ほっこりポスター（かわさきって人だよ）（1回） 【その他の課題】 ・（8月前後の枯れ問題）真夏の猛暑日は朝に水をたっぷりと与えても蒸散と蒸発により昼には土が渴いてしまうほどで、地植えプランターともに一時的に枯れてしまいます。自動水やり機を家庭で使用した参加者は猛暑の期間でも綺麗な毬花を实らせていたため、自動水やり機を使用し水を切らさない工夫が必要と感じました。 ・（今後の運営）2025年度からは区役所による主に広報に関する補助なしでの活動となります。苗代としての参加費が主な活動費用となるため、少ない経費の中でいかに参加者を募るかがキーとなります。今後は醸造所のイベントのひとつとして運営していき、ホップやビールを通じて引き続き地域の緑化と人のつながりを築いていければと思います。
------------------------	---

2 決算内訳

(1) 収入

項目	決算額 (円)	内訳
川崎市の負担金	68,258	
PJ 参加費	54,000	1,500 円×36 株
合 計	122,258	

(2) 支出

項目	決算額 (円)	内訳
謝礼金等	0	
旅費・交通費	0	
消耗品費	45,870	堆肥、立札、単管パイプなど
印刷製本費	8,130	説明会資料、育成ガイドブック印刷費。募集チラシ印刷費
印刷製本費	17,790	説明会資料、育成ガイドブック印刷費。募集チラシ印刷費
通信運搬費	37,400	募集チラシ配送費
使用料・賃借料	0	
保険料	0	
その他	13,068	HP 管理料
合 計	122,258	

※項目が多い場合は行を増やすか、別の用紙（様式自由）に記載してください。

麻生区市民提案型協働事業 振り返り表

団体名	(あさおホップ実行委員会)
事業名	(あさおホッププロジェクト！みんなでつくるグリーンカーテンのまち)

視点	項 目	判 断	判断の主な理由
事業の成果について	事業目的は達成できましたか	①. 十分達成できた 2. ほぼ達成できた 3. あまり達成できなかった 4. 達成できなかった	個人だけでなく学生も参加し、ホップを通じた自発的な緑化推進活動の広がりを感じます。
	事業の成果に対する市民の満足度は十分でしたか	①. 十分満足していた 2. ほぼ満足していた 3. あまり満足していなかった 4. 満足していなかった	地元産ホップを使用したビールが完成しご協力いただいたメンバーの満足度は最高だったと感じます。
	事業の経費は適正でしたか	1. 大きな過不足なく適正に執行された ②. 見込みよりはるかに少なかった 3. 見込みよりはるかに多かった	予算内に納めたが、一般のお客様を招いたイベントは行えませんでした。
	実施過程で問題は発生しましたか	1. 問題は発生しなかった ②. 問題が発生したが適切に解決できた 3. 問題が発生し、解決できなかった	ホップの生育状態の予測ができず一般のお客様を招いたイベントは行えなかったが今年度からの新メンバーを含めた定期的なお手入れ会などで交流を深めることができました。
	協働で実施したことにより、単独で実施するより効果をあげることができましたか	①. 十分効果があった 2. まあまあ効果があった 3. あまり効果がなかった 4. 効果がなかった	地域広報紙や地域番組に取り上げていただいており、区役所との協働であることで信頼性のある事業となっています。
協働の手法について	事業目的や目標の共有化のための協議は十分に行いましたか	①. 十分に行った 2. まあまあ行った 3. あまり行わなかった 4. 行わなかった	説明会を実施した際に共有しました。今年度は常連メンバーの2名を筆頭に役割分担をして運営を行いました。
	協定書などの内容が、対等な関係になっていましたか	①. 対等な関係になっていた 2. まあまあ対等な関係になっていた 3. あまり対等な関係でなかった 4. 明らかに対等な関係でなかった	事業を実施する上で全く問題がなかったです。
	行政と団体で、役割分担や責任範囲の設定は適切でしたか	①. 明確かつ適切に設定できた 2. 明確だったが、適切でなかった 3. 不明確だった	適切に行われていました。
	事業内容について、公開性・透明性が確保されていましたか	①. 十分確保できた 2. まあまあ確保できた 3. あまり確保できなかった 4. 確保できなかった	ご担当の方には適宜活動に参加いただいたり、連絡をとり情報共有をすることができました。
今後の課題	一般の方が収穫会やお手入れ会に参加できるようにすることで、より地域に身近な活動にしていきたいです。また共同畑に関しては、自動水やり機の導入で枯れ被害を軽減するなど、企画等が確実に行えるように、安定的なホップの収穫に向けた育成管理を行っていきたいです。		

令和7年3月3日

事業結果報告書

（あて先）川崎市麻生区長

団体名	明治大学学生農場
-----	----------

1 事業結果

コース	スタートコース	
事業名	親子でサイエンス！地域の食と農	
実施時期	令和6年5月10日～令和7年3月3日	
事業費	予算額	260,000 円
	決算額	38,180 円
実施結果	（具体的な実施内容及び成果物、開催回数、参加人数など） ・ 第一回：生物多様性のサイエンス 6月9日 午前：黒川地域里山散策 午後：借用圃場（麻生区黒川206黒川営農団地組合）にて枝豆を播種 参加人数：一般参加者16名、学生7名 ・ 第二回：農業とSDGsのサイエンス 7月14日 黒川駅集合、猛暑のため明治大学黒川農場へ移動。 午前：明治大学黒川農場敷地内にてイチゴの鉢上げ体験、農場内の施設見学。 午後：明治大学黒川農場教室にて、SDGsに関する講義（講師：竹内（学生）） 参加人数：一般参加者16名、学生4名 ・ 第三回：おいしい野菜を作るサイエンス 9月8日 午前：明治大学黒川農場敷地内加工室にて加工実習、ピザ、スムージー、ポテトチップス試食	

	午後：借用圃場（麻生区黒川 2 0 6 黒川営農団地組合）にて残渣清掃と秋野菜を播種 参加人数：一般参加者 1 8 名、学生 8 名 ・ 第四回：農業と植物生理のサイエンス 1 1 月 1 0 日 午前：岡上ハウス（岡上営農団地内）にてハウス栽培の見学、葉物野菜の収穫 午後：岡上公会堂にて講義と総括を実施。参加した子供たちへ向けて、参加賞（お菓子）の配布、参加者に対するアンケートの実施 参加人数：一般参加者 16 名、学生 10 名 ・ 番外編（第 5 回）：イチゴにまつわるサイエンス 2 月 23 日 午前のみ：岡上ハウス（岡上営農団地内）にて、参加者の定植してくれたイチゴの実を収穫、いちごのパック詰め体験、栽培状況の共有 参加人数：一般参加者 20 名、学生 10 名 ※事業実施時間 午前：9 時～1 2 時 午後：1 3 時～1 5 時
事業総括 （自己評価）	（当初の目標に対する達成度、事業を実施したことによって生じた効果、参加者の反応など） 【当初の目標に対する達成度】 黒川農場を持つ明治大学農学部学生として、地域住民に対する農業の年間を通じた季節と植物の関わり、育つ様子などを共有することと、子供たちに地域の農業について興味を持ってもらうという目標は達成できた。しかし、サイエンスとの関わりをしっかりと説明することに関しては達成が難しかった。来年度は小中学生がより興味を引きやすく、わかりやすい講義を展開していくことを心がける。 【事業の実施による効果、参加者の反応】 本イベントに参加された方は、農業だけでなく、里山散策や加工自習を行うことで、農業に関連した加工や地域に関しての関心も高まったと思われる。農業の難しさ（思うように作物が育たないこと）や、やりがいを感じていただいたことで「私たちはこの黒川の農場に住んでいる場所に近いので、作物のお世話をもっとしたい」という自主的かつ、積極的な声を上げてくださる方もいた。

加工実習では、旬の作物を調理することによって、食材に対する知識を補填した。また、普段料理をしない子どもたちにも、料理を通して、その大変さを教えることによって、親子間のコミュニケーションの活性化も見られた。

里山散策では、地元の方でも普段通らない道を歩くことによって、黒川地域への地理的理解度が向上したように思われる。里地里山の環境に触れてもらうことで、黒川地域にある自然の魅力を発見し、参加者と学生で共有する場となった。

また、全4回と番外編の事業を通して、大学生と小・中学生や保護者の大人の方々との交流を図ることで、専攻的な大学生の知識の枠組みを超えたフレッシュな意見や疑問を、異世代間のコミュニケーションを通して認識することができたと思われる。私たち大学生も参加者の皆さんに教えたり、教わったりという形で、講義や勉学等の知識をより一層実用的なものと考えることができたため、相互に良い刺激を与え合っていたと感じた。

今年度は明治大学学生農場として初めての連携事業であったが、とても多くのことを学ぶことができた。実際に交流することで「地域住民が農業や私たちに対してどんなことを求めているか」の理想と現実の照合が可能となった。来年度も多くの継続を願う声があり、とてもやりがいを感じている。次年度以降も改善を加えながら、地域の住民や農家さん、区役所と連携を行っていく所存である。

2 決算内訳

(1) 収入

項目	決算額 (円)	内訳
川崎市の負担金	200,000	麻生区役所より
参加費	30,000	参加費 3,000 円×10 組
利子	77	銀行口座利子
合 計	230,077	合計

(2) 支出

項目	決算額 (円)	内訳
交通費	7,644	農場までの交通費 (定期券外のみ)
消耗品費	30,536	肥料・農薬 (3,177 円) 加工調理費 (14,839 円) 配布用飲料等 (3,025 円) 持ち帰り用袋 (766 円) イチゴ持ち帰り用パック (968 円) 収穫用ハサミ (5,036 円) マーカー、画用紙、テープ、除菌ボトル等 (2,725 円)
計	38,180	合計

※項目が多い場合は行を増やすか、別の用紙 (様式自由) に記載してください。

麻生区市民提案型協働事業 振り返り表

団体名	(明治大学学生農場)
事業名	(親子でサイエンス！地域の食と農)

視点	項 目	判 断	判断の主な理由
事業の成果について	事業目的は達成できましたか	1. 十分達成できた ②. ほぼ達成できた 3. あまり達成できなかった 4. 達成できなかった	今年度の主な目的である、「明治大学農学部学生と市民及び周辺地域に対しての関わりを持つこと」と「子供たちに地域の農業に興味を持ってもらうこと」をある程度達成できたのではないと思う。おおむねスケジュールのとおりに行事を進めた。けが等もなく、4回の事業を終了した。 目標人数に達しなかった点は事業のPR方法（小学校にチラシ配布のみ）などを再考する。 また、年間の作物の変化を感じるには、回数が4回では物足りないという声があり、参加者は地元住民なので、頻度や内容に改善の余地がある。 小中学生に対して、農業とサイエンスのつながりを教えることはマンパワーが不足していたためかなわなかった。具体的には、サイエンスと農業のつながりを教えることに興味をひかせることが難しかったということである。来年度以降は小学生も十分に集中して聞くことができるよう、「講義の時間を30分程度の時間に設定すること」や、肥料や栄養素の重要性を教えるとともに「実際に肥料をまいた作物と、撒かない作物の観察をしてもらう」など、もう少し基本的なサイエンスとのつながり提示し、小中学生に対して興味を持ってもらうことを目標とする。 来年度は今年度の反省を踏まえながら改善できるところから改善し、連携事業を実施する。

麻生区市民提案型協働事業 振り返り表

事業の成果に対する市民の満足度は十分でしたか	①. 十分満足していた ②. ほぼ満足していた ③. あまり満足していなかった ④. 満足していなかった	最終回の第4回目に、参加者からの声としてアンケートを実施したが、「満足」の解答が非常に多かった。理由としては「生徒や先生の話しやすさ」や、「農業で失敗してしまうという体験」、「自分で育てることの大変さを知った」など、実際に農業に参加してみることによって気づいたことに対する評価であった。また番外編を実施した際には、自分たちの育てたイチゴが実際に実っているところを体験してもらうことができたので、学生も達成感を感じることができた。 「来年も参加したいです」という声を多くもらい、非常に本事業に関してやりがいを感じた。
事業の経費は適正でしたか	①. 大きな過不足なく適正に執行された ②. 見込みよりはるかに少なかった ③. 見込みよりはるかに多かった	事業経費については、当初の予算よりもかなり低い金額で事業を実施することができた。特にネックとなっていた交通費に関しては、人手が足りなくなるとの予想から多めに見積もっていたが、ボランティアとして参加してくれる学生が多くいたため、1万円弱で抑えることができた。 保険に関してや農薬、肥料、印刷費などは支援者である明治大学教員の配慮により今年度は無償で提供してもらったが、継続事業として考えるならば、今後は費用が発生するものと思われる。 また、参加者の希望が多かった加工実習を今年度よりも多く実施する際には、追加で費用が掛かることも考えられる。
実施過程で問題は発生しましたか	①. 問題は発生しなかった ②. 問題が発生したが適切に解決できた ③. 問題が発生し、解決できなかった	実施過程において大きな問題はなかったが、紙媒体での予定表のみの頒布であったため、参加者の中には無くし

麻生区市民提案型協働事業 振り返り表

			てしまう方がいた。再度メールにて予定表を送信したが、今後の課題として改善の余地がある。来年度は HP などを使い予定を可視化できるように試みる所存である。
	協働で実施したことにより、単独で実施するより効果をあげることができましたか	①. 十分効果があった 2. まあまあ効果があった 3. あまり効果がなかった 4. 効果がなかった	麻生区との共同実施により一番効力を感じたのは、小中学校に対して募集のチラシを配れることである。来年度以降は、今年度の口コミもありさらに多くの参加者が期待できる。 また、地域のイベントに参加した際は参加して下さった親子さんから声をかけていただくこともあり、とても励みになった。
協働の手法について	事業目的や目標の共有化のための協議は十分に行いましたか	①. 十分に行った 2. まあまあ行った 3. あまり行わなかった 4. 行わなかった	担当の方との連絡はおおむね順調であった。こちらがわからないことや、実施したい内容について相談しやすい雰囲気づくりをしてくれた。しかし、こちらが不慣れなこともあり、連絡が遅くなるなど迷惑をかけてしまう部分も多々あった。
	協定書などの内容が、対等な関係になっていましたか	①. 対等な関係になっていた 2. まあまあ対等な関係になっていた 3. あまり対等な関係でなかった 4. 明らかに対等な関係でなかった	協定書などは特に問題なく、スムーズに手続きを行えた。
	行政と団体で、役割分担や責任範囲の設定は適切でしたか	①. 明確かつ適切に設定できた 2. 明確だったが、適切でなかった 3. 不明確だった	行政と団体とで役割分担ができていたと感じる。担当の方が取材や記録など、何度もイベントに足を運んでいただいた。実際に現地を見てのアドバイスや、課題解決に向けてのアプローチの共有など、区役所に期待することに対応していただいた。 しかし、私たちには事業慣れしていないこともあり、余計な業務を負担してもらったことになったという反省がある。

麻生区市民提案型協働事業 振り返り表

	事業内容について、公開性・透明性が確保されていましたか	1. 十分確保できた ②. まあまあ確保できた 3. あまり確保できなかった 4. 確保できなかった	当日欠席者に対しては、活動内容がわかる写真やルポタージュをメールで送った。来年度は作成した HP などに予定や当日の様子を記載できれば、なおよいと思う。
今後の課題	今後の課題については、3点ある。 1点目はイベント開催の頻度と時期である。麻生区の中でも今回は黒川の地域にフォーカスして募集をかけていたため、農場が思いのほか近い方が多く、交通に対して障壁を感じている人が少なかった。そのためもっと多くの日程で参加したいという声が多くあった。 また、学生側からもいわゆる期末テスト期間（7月、1月）や文化祭（11月初週）などのイベント行事期間は動けないため、来年度は開催日程を考える必要があるとの意見があった。 さらに、7月から9月にかけてイベントをする際は猛暑などの対策も必要であると感じた。これらを踏まえ、学生の予定を合わせつつ、来年度はもう少し頻度を多くするとともに、夏場は外作業を控えるなどの対策が必要であると感じた。 2点目は経費についてである。当初20万円の予算を組んでいたが、交通費の項目に掛かる費用を大幅に削減することに成功し、最終的には補助金の利用金額を1万円以下にすることができた（3万円は参加費から支出）。しかしながら、補助金を活かしきれなかったという声もあった。 また、今年度は保険金、農薬・肥料代、インク代などの経費は支援教員の配慮による無償提供であったが、今後継続的に活動していくために、できる限り自立して運営したい。来年度は後援事業という形で麻生区との連携を進めていく予定であるが、この点は今後の継続に関わるため特に意識が必要な点である。 3点目は参加人数が十分でなかった点である。計画段階では親子20組（一組を親子2人として40人）を予定していたが、今年度は総人数で25人しか集めることができなかった。しかし、イベントによっては「兄弟を参加させてもよいですか」などの声をいただいた。保険の関係上唐突な参加の許可は難しかったが、来年度の行事決めの際には話し合っていきたい。 また、後半2回に再度募集をかけることも検討したが、年会費として参加費を徴収していたことや、後半の時期の「学生農場への秋の新入会員募集」や夏休み明けの学校の開始なども影響して、結局再度募集をかける案が流れてしまった。それは次年度の課題であると感じた。		

令和7年3月3日

事業結果報告書

（あて先）川崎市麻生区長

団体名	特定非営利活動法人 岡上アグリ・リゾート
-----	----------------------

1 事業結果

コース	スタートコース ・ ステップアップコース	
事業名	麻生区の大学間連携による“川崎市市制 100th 記念”岡上プロジェクト	
実施時期	令和6年 5月 10日 ～ 令和7年 3月 3日	
事業費	予算額	691,528 円
	決算額	652,609 円
実施結果	（具体的な実施内容及び成果物、開催回数、参加人数など） 【麻生区大学共同授業「川崎市市制 100th 記念ワインプロジェクト」】 共同授業では、和光大学・明治大学・田園調布学園大学・昭和音楽大学の学生が対象となり、ワイン造りに関する授業を開催し“川崎市市制 100th 記念ワイン”を完成。 【岡上にある葡萄畑に訪れぶどうの収穫を体験した】 8/19(月) 参加人数（大学生 11 名） 8/24(土) 参加人数（大学生 17 名・一般参加者 20 名） 【ワイナリーにて醸造を体験した】 9/28(土) 参加人数（大学生 20 名） 【しんゆりフェスティバル・マルシェに参加】 10/12(土) 参加人数（各大学合わせ約 40 名） ※麻生区大学連携 PJ のブースで、岡上ヌーボー100 本の販売や各大学の商品を販売した。 （和光大学・岡上ヌーボーのワインラベル作成と岡上エールの販売） （明治大学農学部・岡上ヌーボーのグラス販売と岡上エールの販売） （田園調布学園大学・ぶどうの搾りかすを使用したカンパニーユ等の販売） 【かわさきワインサミット開催】 2/1(土) 参加人数（各大学合わせて約 40 名） ※各大学がワインづくりを通じてどのような取り組みを実施したのか成果発表を行なった。（来場者は大学生を除き約 90 名）	

また、岡上自然写真集（和光大学小林ゼミとの連携）を会場にて配布した。

【今年度の各大学の取り組み実績】

和光大学

① ワインラベルの製作

今年度、地域デザインの授業内を前期後期にわけて、前期（岡上ヌーボー）、後期（川崎市市制 100 周年）のワインラベルの制作を実施した。前期、岡上ヌーボーのラベル制作には 8 名の学生が参加し岡上ヌーボーのラベルはそれぞれ 8 種類完成、しんゆりフェスティバル・マルシェで 100 本限定のイベントを開催する中で自らのデザインのワインボトルを販売し成果を実感することができた。後期、川崎市市制 100 周年のラベルデザインには 7 名の学生が取り組み、7 種類のデザインの中からオフィシャルラベルを川崎市長に決めていただいた。100 周年の記念ワインを麻生区、川崎市それぞれに寄贈させていただいた。

② 岡上自然写真集の写真撮影実施

小林ゼミと連携し岡上地域の自然写真を学生が自ら歩き四季折々の風景を撮影した。学生たちの撮り溜めた写真は数百枚、その中からデザイナーが選び「岡上自然写真集」が完成した。2/1 のかわさきワインサミットの来場者へ配布し、岡上の自然に興味を持っていただくことにつながった。

明治大学農学部（栽培を共同で実施した）

明治大学黒川農場にて、学生と共同でマスカット・ベリーA の栽培に取り組んだ。川崎市市制 100 周年の記念ワインに含まれるブドウ 5% は学生たちが栽培したブドウである。

明治大学理工学部（新規ワイナリーの設計）

川崎市市制 100 周年を記念し、新規ワイナリーの建設を開始した。その中で学生が設計に関わり図面を完成させ、断熱材として岡上地域の籾殻を活用、学生たちの手で断熱処理を施した。

田園調布学園大学（葡萄畑にて農福連携を実施）

学生がブドウ栽培を学び、大学の紹介で障害者の方々もブドウの傘かけ作業を行った。また、しんゆりフェスティバル・マルシェやサステナブルマルシェにてパン屋と取り組んだ「ブドウの搾りかすでつくるカンパーニュ」を販売した。サステナブルマルシェの販売には就労体験として障害者の方とともに販売を実施した。

昭和音楽大学（9/7,8 2 日間ミュージカルとワインの企画を実施した）

※川崎市経済労働局との連携により実施

麻生区にある音楽大学はこれまで自然豊かな環境に因んだ取り組みを模索していたこともあり実現した。農産物である地場産ワインと音楽を融合したイベントを実施した。内容は昭和音楽大学ミュージカル 2024 として地域の自然と合わせたミュージカル公演を発表していた、タイアップイベントとしてミュージカル公演を鑑賞し、大学内にあるイタリアンレ

	ストラン「ミラフォレスタ」にて麻生区の農業とワインの講座を、その後麻生区の野菜とワインを堪能いただいた。 日本映画大学（今年度の連携について意見交換を行った） 大学には大学連携プロジェクトのチラシを置かせていただいた。しかし、大学としてはなかなか実施することが難しいとお話をいただいたがとても興味を持っていただき今後の連携を模索することとなった。
事業総括 (自己評価)	（当初の目標に対する達成度、事業を実施したことによって生じた効果、参加者の反応など） ワインという農産物を通じて麻生区の魅力を再認識できた。また、自主的に参加した各大学が共同で取り組むことで大学間のつながりができた事だけではなく、麻生区に多様な大学が存在していることも麻生区にとって貴重な地域資源であることが取り組みを通じて認識することができた。新たな大学間のつながりが生まれ、連携しながら取り組みができたことや、普段は家と大学の往復だけだった学生が地域に関わることで麻生区の魅力を知って発信できたことが良かったと考えている。 区民との交流の場として2回のマルシェを経験し学生間だけでなく多世代が交流できたことも良い収穫であった。 次年度以降は、ますます各大学がともに活動できる授業の提案をしていきたいと考えている。

2 決算内訳

(1) 収入

項目	決算額 (円)	内訳
川崎市の負担金	500,000	
参加費	30,000	ぶどう収穫体験 (一般参加) 1,500 円 : 20 名 = 30,000 円
負担額	122,609	自社負担
合 計	652,609	

(2) 支出

項目	決算額 (円)	内訳
謝礼金	190,000	【かわさきワインサミットゲスト】 OIV 登録品種協議会 : 20,000 和光大学竜鼓座 : 20,000 【かわさきワインサミット運営協力】 和光大学地域デザイン : 30,000 明治大学アグリサイエンス研究室 : 30,000 明治大学川島範久研究室 : 30,000 田園調布学園大学和研究室 : 30,000 【岡上地域自然写真集撮影協力】 和光大学小林猛久ゼミ : 30,000
印刷製本費	439,780	【大学共同授業 (ワインづくり体験) チラシ代】 @30,580(300 部) 【大学共同授業 (岡上ヌーボーリーフレット)】 @47,300(500 部) 【かわさきワインサミットチラシ代】 @34,100(500 部) 【川崎市市制 100th 活動記録折りリーフレット】 @171,600(500 部) 【岡上地域自然写真集 (冊子)】 @156,200(200 部)
消耗品	6,829	印刷用紙、インク
施設利用料	15,000	しんゆりフェスティバルマルシェ (ブース利用料)
保険代	1,000	かわさきワインサミット (イベント保険)
合 計	652,609	

麻生区市民提案型協働事業 振り返り表

団体名	(特定非営利活動法人 岡上アグリ・リゾート)
事業名	(麻生区の大学間連携による“川崎市市制 100th 記念”岡上プロジェクト)

視点	項 目	判 断	判断の主な理由
事業の成果について	事業目的は達成できましたか	1. 十分達成できた ②. ほぼ達成できた 3. あまり達成できなかった 4. 達成できなかった	麻生区の全ての大学との連携を目指したが、日本映画大学のみ連携には至らなかった。その他は達成できた。
	事業の成果に対する市民の満足度は十分でしたか	1. 十分満足していた ②. ほぼ満足していた 3. あまり満足していなかった 4. 満足していなかった	市民の方は普段、大学生と交わることがなく、当取り組みにより関わることでできたことで良い反応があった。
	事業の経費は適正でしたか	①. 大きな過不足なく適正に執行された 2. 見込みよりはるかに少なかった 3. 見込みよりはるかに多かった	特になし
	実施過程で問題は発生しましたか	①. 問題は発生しなかった 2. 問題が発生したが適切に解決できた 3. 問題が発生し、解決できなかった	特になし
	協働で実施したことにより、単独で実施するより効果をあげることができましたか	①. 十分効果があった 2. まあまあ効果があった 3. あまり効果がなかった 4. 効果がなかった	緊密に連携が取れており、協働で実施した効果があった。
協働の手法について	事業目的や目標の共有化のための協議は十分に行いましたか	①. 十分に行った 2. まあまあ行った 3. あまり行わなかった 4. 行わなかった	十分に協議ができた。
	協定書などの内容が、対等な関係になっていましたか	①. 対等な関係になっていた 2. まあまあ対等な関係になっていた 3. あまり対等な関係でなかった 4. 明らかに対等な関係でなかった	対等な関係となっていた。
	行政と団体で、役割分担や責任範囲の設定は適切でしたか	①. 明確かつ適切に設定できた 2. 明確だったが、適切でなかった 3. 不明確だった	適切に実行できた。
	事業内容について、公開性・透明性が確保されていましたか	①. 十分確保できた 2. まあまあ確保できた 3. あまり確保できなかった 4. 確保できなかった	確保できた。
今後の課題	各大学が協働して活動する場合、大学ごとの予定の調整の方法を検討する必要がある。 市民の方と大学生がともに関わる場を設けた場合、人数が多くなるため安全性などを担保するよう検討する必要がある。		

令和7年3月3日

事業結果報告書

（あて先）川崎市麻生区長

団体名	Miraiall かわさき
-----	---------------

1 事業結果

コース	スタートコース ・ ステップアップコース	
事業名	Miraiall かわさき「健康」をテーマとした多世代共考プロジェクト	
実施時期	2024年5月17日～2025年3月3日	
事業費	予算額	739,106 円
	決算額	910,680 円
実施結果	（具体的な実施内容及び成果物、開催回数、参加人数など） 定例会&イベント打ち合わせ（5回） 7月15日 第1回 キックオフミーティング （9名・オンライン5名参加）自己紹介・麻生区内で多世代で健康をどう広めていくか？をミーティングイベント企画案などを話し合った。 8月13日 子供が健康を考える勉強会（麻生区小学生8名参加） 国民皆保険って？どうやったら健康でいられる？の話を子供達と行いました。 じゃがいも植えを子供達と高齢者3名と Miraiall メンバーと行い多世代交流を開催。 10月13日 しんゆりフェスティバル・マルシェに向けてのアイデア出しミーティングを開催（8名参加） 10月19日 カワサキ SDGs 推進隊の子供達と保護者の健康の大切さの授業を開催。しんゆりフェスティバル・マルシェのお手伝いを募集（15名参加）	

	11 月 9 日 しんゆりフェスティバル・マルシェ事前ミーティング開催 担当決めなどを行った。(15 名参加) 11 月 14 日 しんゆりフェスティバル・マルシェのミーティング開催 11 月 17 日 しんゆりフェスティバル・マルシェ参加 4 ブースを出展 医療クイズスタンプラリー・レモネードスタンド(麻生区小学生)魔法のステッキ作りワークショップ・看護師による健康相談会・音楽コンサート・こども落語を開催 (看護師 4 名・薬剤師 2 名・ボランティア 17 名) 12 月 14 日 クリスマスコンサート&ウインターフェスに参加 じゃがいも収穫祭 桐光学園の学生さんと地域の高齢者の方と多世代交流イベントに参加 イベント終了後高齢者、学生、子供達とじゃがいも収穫 (約 70 名参加) 1 月 21 日 サステナブルマルシェミーティング 新しい参加の方に今までの活動報告と 2 月 1 日のイベントの趣旨を説明。 講師の方とのお打ち合わせをし、クイズなどの内容を話し合った。 2 月 1 日 サステナブルマルシェに参加 特定検診を受けよう!ブースにて高齢者と健康相談やNECさんによる将来の病気予測シミュレーションを行った。 音楽コンサート・研究者体験・ステッキ作り・麻生区小中学生とのレモネードスタンドを開催 (看護師 1 名 薬剤師 2 名 小児がん講師 1 名 ボランティア 9 名) 2 月 24 日 あさお地域健幸フェスタ MOFF バンドによる転倒防止健康チェック ルネッサンス主催のイベントに参画。
--	---

	麻生リハビリ総合センター・パルシステム・地域包括支援センター・川崎フロンターレ様・(株) ソエルテ様と一緒に健康をテーマにイベントを開催。 普段から運動をしている健康意識の高い方が中心でした。運動をしている方の数値が平均以上の方が多く、数値で認識できる事に喜んでいただきました。
事業総括 (自己評価)	(当初の目標に対する達成度、事業を実施したことによって生じた効果、参加者の反応など) Miraiall かわさきは高津区を中心に活動しており、北部との接点が全くなかったが、今回麻生区にて(株) ソエルテさん 桐光学園さん ルネサンスさん カワサキ SDGs 推進隊 麻生区の小中学生 地域で健康に関する活動をしている薬剤師・栄養士さんなど地域の方々と世代を超えて健康をテーマに活動する事ができました。 麻生区は長寿の街で健康意識が高い事もあり、Miraiall かわさきがやった健康ブースには多くの方が関心をもち、特にこども達とやったレモネードスタンドは多くの高齢者の方がお声をかけてくださいました。 私の孫も小児がんだったのよ・・・とか麻生区でレモネードスタンドやっているなんて！レモネードスタンドってどこでやっているのかしら？と思っていたのよ。大切な事よね・・・など直接市民の声を聴く事ができました。 医療資源の大切さに関してはほとんどの方が意識していなかった、これからは意識していかないと子供達の未来「世界平等の治療が受けられない」「必要な人に必要な医療が届かない事になってしまう」という事が市民にきちんと伝える事ができたと思います。

2 決算内訳

(1) 収入

項目	決算額（円）	内訳
川崎市の負担金	500,000	
協賛金	410,680	
合 計	910,680	

(2) 支出

項目	決算額（円）	内訳
謝礼金等	217,800	看護師 6 名・栄養士 2 名・小児がん講師
消耗品費	50,280	雑費
印刷製本費	264,000	チラシ・SNS チラシ・印刷費
使用料・賃借料	223,600	しんゆりフェスティバル・マルシェ 123,600 円 サステナブルマルシェ 100,000 円
保険料	5,000	保険
その他 (委託料)	150,000	音楽コンサート 100,000 円 落語 50,000 円
合 計	910,680	

※項目が多い場合は行を増やすか、別の用紙（様式自由）に記載してください。

麻生区市民提案型協働事業 振り返り表

団体名	(Miraiall かわさき)
Miraiall かわさき「健康」をテーマとした多世代共考プロジェクト	

視点	項目	判断	判断の主な理由
事業の成果について	事業目的は達成できましたか	1. 十分達成できた ② ほぼ達成できた 3. あまり達成できなかった 4. 達成できなかった	川崎市北部で活動をする機会がなかったが今回北部でも活動を広げる事ができ、新しい人との出会い活動が広がった。
	事業の成果に対する市民の満足度は十分でしたか	① 十分満足していた 2. ほぼ満足していた 3. あまり満足していなかった 4. 満足していなかった	アンケート結果からもこのイベントを通さなければ知らなかった情報の提供ができ、高評価をいただいた。
	事業の経費は適正でしたか	1. 大きな過不足なく適正に執行された 2. 見込みよりはるかに少なかった ③ 見込みよりはるかに多かった	しんゆりフェスティバル・マルシェとサステナブルマルシェという大きな麻生区のイベントに参加でき広く麻生区民に周知する事ができたが、当初の予定よりは費用がかかった。
	実施過程で問題は発生しましたか	① 問題は発生しなかった 2. 問題が発生したが適切に解決できた 3. 問題が発生し、解決できなかった	特に問題はなかった
	協働で実施したことにより、単独で実施するより効果をあげることができましたか	① 十分効果があった 2. まあまあ効果があった 3. あまり効果がなかった 4. 効果がなかった	チラシなどを配る際も麻生区の校長会に出席させていただいたり、告知の面では大変効果を感じました。 麻生区の議員の先生にもイベントでお声をかけていただき、今後の活動を広げるいいお話などもいただきました。
協働の手法について	事業目的や目標の共有化のための協議は十分に行いましたか	① 十分に行った 2. まあまあ行った 3. あまり行わなかった 4. 行わなかった	働いてる方やお子さんがいる方など多世代の方に参加いただいたので、時間帯など工夫しましたがオンラインとリアルを組み合わせなるべく多くの方に参加いただけるようにしました。 個別にも説明をしたり、この事業をやる意味を丁寧に説明しながら進めました。
	協定書などの内容が、対等な関係になっていましたか	① 対等な関係になっていた 2. まあまあ対等な関係になっていた 3. あまり対等な関係でなかった 4. 明らかに対等な関係でなかった	対等な関係でアドバイスなどいただき、スムーズに進める事ができました。
	行政と団体で、役割分担や責任範囲の設定は適切でしたか	① 明確かつ適切に設定できた 2. 明確だったが、適切でなかった 3. 不明確だった	初めての補助金でわからない事も多かったのですが、担当者より適宜ご連絡をいただき、アドバイスなどをいただけたので進める事ができました。

麻生区市民提案型協働事業 振り返り表

	事業内容について、公開性・透明性が確保されていましたか	1. 十分確保できた ②. まあまあ確保できた 3. あまり確保できなかった 4. 確保できなかった	HP や SNS チラシなどを組み合わせ公開しました。
今後の課題	麻生区にどんな方がいて、どんなコミュニティが存在するかなどを知った1年でした。 今回活動をしてみて、子ども・高齢者への健康などの支援はあるものの、40代から55歳の方への健康に関する周知ができませんでした。年齢的に健康な方が多い年代ですが、この年代から健康に気遣う事がとても大切で、この年代に周知する事で将来の医療費削減にもつながっていくと思います。 来年度はこの世代の健康意識向上にアプローチしていきたいと思います。		